

# 2014 年度 研究所・センター事業報告書

研究所・センター名	人文科学研究所
研究所・センター長名	小関素明

## I. 研究成果の概要

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2014 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。

### 【研究会活動の概要】

人文科学研究所は現在、1. 史料の収集・蓄積を重視した日本近代社会・思想史研究、2. 現在社会と人間を解読するために哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索、3. グローバル化の問題点の検証とそれへの実践的な対応の模索の 3 点を共同研究の柱に掲げている。その目標のもとに 5 つの研究所重点プロジェクト研究、①「近代日本思想史—戦後憲法論議の再検討—」(代表:小関素明)、②「暴力からの人間存在の回復」(代表:加國尚志)、③「間文化性における知の混淆と異化」(代表:谷徹)、④「グローバル化とアジアの観光」(代表:藤巻正己)、⑤「グローバル化と公共性」(代表:堀雅晴)と、7 つの研究助成プロジェクト⑥「グローバル化時代のポピュリズム」(代表:川村仁子)、⑦「戦後の京都地域における歴史学の展開過程に関する研究」(代表:田中聡)、⑧「グローバルガバナンスにおける市民社会の役割」(代表:足立研幾)、⑨「社会科学の哲学的基礎の研究—批判的実在論の可能性—」(代表:佐藤春吉)、⑩「高度メディア社会における映像に関与する身体様態に関する理論的研究」(代表:北野圭介)、⑪「学際知に基づく制度論的マイクロ・マクロ・ループ論の体系化:アクターの多様性とその活動空間を巡る理論と実証」(代表:江口友朗)、⑫「日本の最高裁判所—最高裁判決と制度的・人的構成の関係」(代表:市川正人)を設置し、研究活動を行っている。

#### 1. 資料収集・調査活動

これに関しては①が、国立国会図書館や新聞資料ライブラリー、各県立図書館で 1960 年代の地方新聞所収の憲法関連論説の収集に取り組み、3 冊目となる成果報告書(資料集)『1960年代の憲法論議—地方紙を中心にして—』(研究課題番号 24520780) (2015 年 3 月)として刊行した。今回のものを含めて、過去 3 冊刊行した資料集はこれまでに類例のないものであり、今後地方ジャーナリズムにおける戦後憲法論議の研究に大きく資するものと思われる。⑦が三品彰英旧蔵史料・奥丹後地方教職員組合資料・上羽絵惣資料などの整理、目録作成、『祇園祭』関連資料(京都文化博物館所蔵)の調査を進めた。

#### 2. 学際研究・国際交流への取り組み

学際的研究に関してはほとんどの研究会が組織的に展開しているほか、参加メンバー個人も精力的に取り組んでいる。国際交流に関しては③が白川静記念東洋文化研究所との共催による国際シンポジウム「西洋・東アジアと漢字文化の出会い」の開催、Markus Wirtz 氏(ケルン大学)、Darin Tenev 氏(ソフィア大学)を招聘した国際講演会の開催、⑤が国際シンポジウム「東アジアにおける新自由主義的グローバル化と変容する社会経済構造」(産業社会学部創設 50 周年企画と共催。於立命館大学)を開催、⑧が Claire Turenne-sjolander 氏(オタワ大学)Achim Wennmann 氏(ジュネーブ平和構築プラットフォーム事務局長)の招聘、昨年に引き続き国際学会 International Studies Association でのパネル報告(足立研幾・Clifford Bob)、⑨が国際学術企画「批判的実在論と社会科学によるその可能性」を開催したことが特筆される。

#### 3. 研究成果の発信と社会貢献

ほとんどすべての研究会が学内外の学術雑誌への寄稿あるいは国内シンポジウム、公開セミナー・ワークショップの企画・開催、学術図書の刊行準備、関連書籍の翻訳に精力的に取り組んでおり、多彩でユニークな研究成果発信がなされつつある。特色ある取り組みとしては、②による「平和ミュージアムとの共催で原発事故後の福島に関する講演会と映画上映、④による公開セミナー「ダークツーリズムという問い」(観光学術学会との共催)の開催などが挙げられる。

#### 4. 若手研究者の支援

研究所重点プログラムに関しては、人数の差はあるが、すべての研究会が若手研究者を構成メンバーに加え、資料収集活動の援助・指導、報告や成果執筆・翻訳の機会の提供や博士論文・研究資金の分与を行い、学外の若手研究者とのネットワーク形成を支援するなど、その育成に力を入れている。また若手研究者に研究会の企画を委ねるなど、研究者として自立するに際して必要な経験の機会を与えたプロジェクトも存在する。これら研究会所属の若手研究者のなかから他大学准教授就任(1 名)、本学助教就任(2 名)のほか、日本学術研究会特別研究員(DC)、本学専門研究員(旧学内 PD)、他大学のリサーチアシスタント(任期制)に採用される若手研究者が現れたことは、これら研究会の若手研究者支援が実をあげつつある証左と言えよう。

助成プログラムにおいても、若手研究者に学内外での口頭報告や、学術雑誌への成果執筆の機会を提供し、効果的な若手研究者育成に功を奏しつつある研究会も存在する。

## II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2015年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位	
研究所長・センター長	小関素明	文学部	教授	
運営委員	藤巻 正己	文学部	教授	
	谷 徹	文学部	教授	
	加國 尚志	文学部	教授	
	遠藤 英樹	文学部	教授	
	加藤 政洋	文学部	准教授	
	松下 冽	国際関係学部	特任教授	
	足立 研幾	国際関係学部	教授	
	堀 雅晴	法学部	教授	
	筒井 純也	産業社会学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	中島茂樹	法学部	特任教授	
	蔦野克己	文学部	教授	
	ウェルズ恵子	文学部	教授	
	北尾宏之	文学部	教授	
	伊勢俊彦	文学部	教授	
	林 芳紀	文学部	准教授	
	亀井大輔	文学部	准教授	
	羽谷 沙織	国際教育推進機構	准教授	
	駒見 一善	国際教育推進機構	准教授	
	De Antoni Andrea	国際関係学部	准教授	
	四本 幸夫	APU アジア太平洋学部	准教授	
	麻生 将	文学部	助教	
	西口 清勝	経済学部	特任教授	
	篠田 武司	産業社会学部	特任教授	
	文 京洙	国際関係学部	教授	
	田中 宏	経済学部	教授	
	山下 範久	国際関係学部	教授	
	川村 仁子	国際関係学部	准教授	
	玉置 えみ	産業社会学部	助教	
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	林尚之	衣笠総合研究機構	専門研究員
		佐藤太久磨	衣笠総合研究機構	専門研究員
		池田裕輔	衣笠総合研究機構	専門研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	学振特別研究員(PD・RPD)			

博士後期課程院生・一貫制博士課程 3 回生以上在籍院生	寺澤(奈良)ゆう	文学研究科	博士後期課程 2 回生
	横田祐美子	文学研究科	博士後期課程 2 回生
	松田智裕	文学研究科	博士後期課程 3 回生
	小田切建太郎	文学研究科	博士後期課程 2 回生
	雨森 直也	文学研究科	博士後期課程 6 回生
	円城 由美子	国際関係研究科	博士後期課程 3 回生
	猪原透	文学研究科	学振特別研究員 DC
	真杉侑里	文学研究科	学振特別研究員 DC
	山口一樹	文学研究科	学振特別研究員 DC
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	梶居佳広	経済学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)
	頼原善徳	文学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)
	黒岡佳柁	文学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)
	城下賢一	文学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)
	神田大輔	文学部	非常勤講師
	佐藤勇一	文学部	非常勤講師
	青柳雅文	文学部	非常勤講師
	小林琢自	文学部	非常勤講師
	田邊正俊	文学部	非常勤講師
	薬師寺 浩之	文学部	助手
	織田康孝	文学研究科	博士前期課程 2 回生
	久保健至	文学研究科	博士前期課程 2 回生
	風間健	文学研究科	博士前期課程 1 回生
	酒井麻衣子	文学研究科	研修生
客員協力研究員	中谷 義和	上席研究員	非常勤講師
	柴田 義雄	産社社会学部	元非常勤講師
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	赤澤史朗	人文科学研究所	上席研究員
	吉田武弘	京都大学文学部	学振特別研究員 PD
	山本 勇次	大阪国際大学	名誉教授
	村瀬 智	大手前大学	教授
	池本 幸生	大阪学院大学	教授
	石井 香世子	東洋英和女学院	教授
	古村 学	宇都宮大学	准教授
	大野 哲也	桐蔭横浜大学	准教授
	峯俊 智徳	四天王寺大学	講師
	井澤 友美	龍谷大学	RA
研究所・センター構成員 計 67 名 (うち学内の若手研究者 計 13 名)			

### Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2015年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	小関素明	日本近代主権と立憲政体構想	単著	2014年12月	日本評論社		計371頁
2	赤澤史朗	『戦後知識人と民衆観』	共編	2014年6月	影書房	北河賢三・黒川みどり	計371頁
3	谷徹	『臨床哲学とは何か、臨床哲学の諸相』	共著	2015年1月	河合文化教育研究所		pp.202-227
4	谷徹	『<生と死> 日独文化研究所シンポジウム』	共著	2014年7月	こぶし書房 公益財団法人日独文化研究所編		pp.85-112
5	Toru Tani	Figuren der Transzendenz	共著	2014年5月	Koenighausen & Neumann	Michael Staudigl / Christian Sternad	PP. 143~161
6	谷 徹	〈生と死〉 日独文化研究所シンポジウム	共著	2014年7月	こぶし書房	公益財団法人・日独文化研究所	PP. 85~112
7	谷 徹	間文化性の哲学	共著	2014年8月	文理閣	谷 徹(編者)	PP. iii~xiii
8	小田切建太郎	Horizont als Grenze: Zur Kritik der Phaenomenalitaet des Seins beim fruehen Heidegger	単著	2014年	Traugott Bautz		
9	亀井大輔	間文化性の哲学	共著	2014年8月	文理閣	谷 徹(編者)	PP. 38~54
10	亀井大輔	『現象学的看護研究 理論と分析の実際』	共著	2014年12月	医学書院	松葉祥一・西村ユミ(編)	PP. 201~203
11	神田大輔	間文化性の哲学	共著	2014年8月	文理閣	谷 徹(編者)	PP.55~75
12	青柳雅文	間文化性の哲学	共著	2014年8月	文理閣	谷 徹(編者)	PP. 142~161
13	藤巻正己	災害の地理学	単著	2014年7月	文理閣	吉越昭久編	PP. 137~163
14	藤巻正己	アメリカスのまなざし—再魔術化される—観光	単著	2014年12月	天理大学出版会	天理大学アメリカス学会編	pp.37~58
15	藤巻正己	観光学ガイドブック—新しい知的領野への旅立ち—	単著	2014年4月	ナカニシヤ出版	大橋昭一・橋本和也、遠藤英樹・神田孝治編著	pp.162~167
16	Fujimaki Masami	International Tourist Movements and Patterns in Sabah 1988-2013	共著	2014年12月	Penerbit Universiti Pendidikan Sultan Idris: Tanjong Malim, Perak, Malaysia	Tarmiji Masron, Badaruddin Mohamed, Azizan Marzuki, Norhasimah Ismail	
17	遠藤英樹	観光学ガイドブック—新しい知的領野への旅立ち—	共編著	2014年4月	ナカニシヤ出版	大橋昭一・橋本和也、神田孝治	pp.34-39、pp.114-119、pp.150-155
18	遠藤英樹	観光メディア論	共編著	2014年5月	ナカニシヤ出版	寺岡伸悟、堀野正人	pp257-274
19	西口清勝・	メコン地域開発と ASEAN 共同体—域内格差の是正を目指して—	共編著	2014年6月	晃洋書房	西澤信善	
20	足立研幾	『国際政治と規範—国際社会の発展と兵器使用をめぐる規範の変容—』	単著	2015年	有信堂高文社		1-240頁
21	足立研幾	『グローバル・ガバナンス論』、第17章「兵器ガバナンス」	共著	2014年	法律文化社		230-243頁

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	中島茂樹	新自由主義大学構造改革と大学の自治 (1)	単著	2014年4月	立命館法学 355		pp.1~38	有
2	林尚之	非常時のなかの立憲主義の転回と平和国家	単著	2014年7月	立命館文学 638			有
3	佐藤太久磨	自主憲法の本質、その起源と揺曳—神川彦松の場合—	単著	2015年2月	立命館大学人文科学研究紀要 105		pp.71~96	有
4	吉田武広	「両院縦断」の系譜—もう一つの政党政治構想をめぐって—	単著	2015年3月	次世代人文社会研究 11		pp.41~61	有
5	吉田武弘	憲法論議の「定式化」と戦後民主主義—1950年代後半から60年代前半における憲法論議をめぐって	単著	2015年3月	科学研究費補助金成果報告書『1960年代の憲法論議—地方紙を中心として—(研究課題番号 24520780)』		pp.13~23	無
6	猪原透	大正期の刑法学における科学主義について—牧野英一を中心に—	単著	2014年11月	立命館史学 35		pp.61~89	有
7	真杉侑里	群馬県達摩屋の営業と出歩く酌婦	単著	2015年3月	井上章一・三橋順子編『性欲の研究 東京のエロ地理編』平凡社			無
8	寺澤ゆう	東京府の二大私娼窟形成にみる近代日本の売買春と管理体制	単著	2014年10月	日本史研究 626		pp.29~58	有
9	赤澤史朗	藤原省三における知識人象と民衆観の変容	単著	2014年6月	赤澤史朗・北河賢三・黒川みどり『戦後知識人と民衆観』影書房		pp.293 ~ 330	無
10	赤澤史朗	藤原省三の戦後天皇制論	単著	2105年1月	出原政雄編『戦後日本思想と知識人の役割』法律文化社		pp.13~35	無
11	梶居佳広	朝鮮戦争・日韓関係(1950~1953年)に関する新聞社説	単著	2015年3月	社会システム研究 30、立命館大学社会システム研究所		pp.81~103	有
12	梶居佳広	国際問題としての領事館警察	単著	2015年3月	人文学報 106号、京都大学人文科学研究所			有
13	梶居佳広	イギリスからみた日本の朝鮮統治：評価と批判そして朝鮮人観	単著	2015年3月	別冊正論 23、産経新聞社		pp.108 ~ 117	無
14	梶居佳広	60年代憲法問題と新聞論説：憲法調査会(1957~1964年)を中心に	単著	2015年3月	『1960年代の憲法論議—地方紙を中心として—』平成24年度~平成26年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書		pp.1~12	無
15	穎原善徳	大日本帝国憲法起草過程における条約締結権	単著	2015年2月	立命館大学人文科学研究紀要 105		pp.37~67	有
16	横田祐美子	「唯物論としての「内的体験」—パライムにおける「未知のもの」と質料としてのアルケー—	単著	2015年2月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究紀要、105号		123-124	有
17	黒岡佳征	「受難にさらされた身体—ハイデガーと身体問題—」	単著	2015年2月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究紀要、105号		123-143頁	有
18	鷹野克己	「皇紀夫編著『人間と教育』を語り直す—教育研究へのいざない—」を読む	単著	2015年2月	関西教育学会編「関西教育学会研究紀要」、第14号		54-59頁	無
19	鷹野克己	「あいさつと超越性—祈りとしてのあいさつのために—」	単著	2014年9月	『マナーと作法の人間学』東信堂		68-99頁	無
20	鷹野克己	「文化の根底と意味に生きる人間—あなたと一緒にケーキを食べたい—」	単著	2015年3月	上小教育会編『上小教育』第58号		114-147頁	無

21	ウェルズ恵子	「アメリカは歌う、陽気に、力強くー近代化の渦の中で」	単著	2014年9月	『Vintage Clothing: 古着屋さん』 1037号		16-33頁	無
22	加國尚志	「私は私に触れる」: マルブランシュと現象学: ミシェル=アンリとメルロ=ポンティの解釈を中心に」	単著	2014年9月	『フランス哲学・思想研究』日仏哲学会 19号		13-26頁	無
23	加國尚志	「メルロ=ポンティとフロイトー1954-55年講義「受動性」を中心に」	単著	2014年9月	「メルロ=ポンティ研究」メルロ=ポンティ・サークル第18号		89-97頁	無
24	加國尚志	「身体と肉ーサルトルとメルロ=ポンティの身体論再考」	単著	2015年3月	『サルトル読本』 澤田直編 法政大学出版局		204-218頁	無
25	Toru Tani	Phaenomenalisierung der Kultur	単著	2014年7月	Mohr Siebeck International Yearbook for Hermeneutics, 13	Guenter Figal	PP. 88~99	無
26	伊勢俊彦	人間と自然の関係における狩猟の意義	単著	2014年5月	環境思想・教育研究会『環境思想・教育研究』7号		PP. 134 ~ 140	無
27	亀井大輔	デリダとメルロ=ポンティにおける制度(化)の問題	単著	2014年9月	日本メルロ=ポンティ・サークル(編)『メルロ=ポンティ研究』18号		PP. 98 ~ 108	無
28	亀井大輔	目的論における終末論の裂目	単著	2014年11月	岩波書店『思想』1088号(特集: 10年後のジャック・デリダ)		PP. 124 ~ 138	無
29	亀井大輔	自己伝承と自己触発 デリダの『ハイデガー』講義(1964-1965)について	単著	2015年1月	青土社『現代思想』43巻2号(総特集: デリダ 10年目の遺産相続)		PP. 173 ~ 187	無
30	横田祐美子	唯物論としての「内的体験」ーパタイユにおける「未知のもの」と質料としてのアルケーー	単著	2015年2月	立命館大学人文科学研究so『立命館大学人文科学研究so紀要』105号		PP. 145 ~ 161	有
31	黒岡佳柁	哲学と共同性ーハイデガーの本来的共存存在解釈への一視座	単著	2014年3月	公益財団法人・日独文化研究所『文明と哲学』第6号		PP. 146 ~ 160	有
32	林芳紀	医学研究者の責務としての追加的ケア: 部分委託モデルの概要と課題	単著	2014年8月	『医薬ジャーナル』50巻8号		PP. 107 ~ 111	無
33	Yoshinori Hayashi,	Handling incidental findings in neuroimaging research in Japan: current state of research facilities and attitudes of investigators and the general population	共著	2014年	Health Research Policy and Systems 12	Misao Fujita, Shimon Tashiro, Kyoko Takashima, Eisuke Nakazawa, Akira Akabayashi	P. 58	有
34	Yusuke Ikeda	Transzendentaler Schein und phaenomenologische Urspruenglichkeit – Welterfahrung bei Husserl und Fink	単著	2014年	St. Petersburg, Horizon Tom3 (1) 2014		PP. 64~98	有
35	Yusuke Ikeda	L'evenementialite du phenomene selon « Neue Phaenomenologie in Frankreich »	単著	2015年	Belgium, Revue internationale Michel Henry N° 6. 2015		PP. 177 ~ 202	無
36	藤巻正己	アンティグア・グアテマラにおける民族衣装の観光商品化とインディヘナの女性たちーグアテマラ織りとウィピルをめぐってー	共著	2015年3月	立命館大学人文科学研究so紀要 106号	石井真佑	pp.101 ~ 132	無
37	井澤友美	ポスト・スハルト期におけるインドネシア・バリ州の観光開発とその影響	単著	2014年9月	観光学評論(観光学術学会)、Vol.2 No.2		pp. 143-154	有

38	麻生将	函館におけるツーリズムと大火の関係についての予備的考察—ダークにならないツーリズム—	単著	2015年3月	立命館大学人文科学研究所紀要 106号		pp. 71~100	無
39	De Antoni Andrea	The Politics of Spirits and the Legacy of The Exorcist : Creating Discourses of Spirit Possession in Contemporary Japan and Italy	単著	2015年3月	立命館大学人文科学研究所紀要 106号		pp.27~70	無
40	山本勇次	ネパール・ポカラ市スラム集落発達と自生的リーダーの機能と限界	単著	2015年3月	立命館大学人文科学研究所紀要 106号			無
41	堀雅晴	マルクスとガバナンス論(1)	単著	2014年12月	立命館法学 346号		PP. 349~386	無
42	玉置えみ	Lifetime Prevalence of Mental Disorders among Asian Americans: Nativity, Gender, and Sociodemographic Correlates.	共著	2014年8月	Asian American Journal of Psychology. 5/ 4	Seunghye Hong, Emily Walton, and Janice A. Sabin.	353-363	有
43	玉置えみ	Do Low Survey Response Rates Bias Results? Evidence from Japan.	共著	2015年3月	Demographic Research 32/ 26	Ronald R. Rindfuss, Minja K. Choe, Noriko O. Tsuya, Larry L. Bumpass,	797-828	有
44	松下 洸	ラテンアメリカ「新左翼」はポピュリズムを超えられるか？(上)	単著	2014年6月	『立命館国際研究』27 巻1号		pp.151-180	無
45	松下 洸	ラテンアメリカ「新左翼」はポピュリズムを超えられるか？(中)	単著	2014年10月	『立命館国際研究』27 巻2号		pp.51-83	無
46	松下 洸	ラテンアメリカ「新左翼」はポピュリズムを超えられるか？(下)	単著	2015年3月	『立命館国際研究』27 巻3号		pp.71-116	無
47	円城由美子	フセイン政権後のイラクと国内避難民—増加する長期的避難民と疲弊する受け入れ先コミュニティー—	単著	2015年3月	大阪女学院大学紀要第11号		PP. 1~22	有
48	中谷義和	The Changing Contours of "Stateness" and Prospects for Democracy under Neoliberal Globalization.		June 2014	Ritsumeikan Law Review, Vol. 31,		pp.19-33	
49	中谷義和	国民国家と「世界秩序」論(1)		2014年8月	『立命館法学』、354号		105-144頁	
50	中谷義和	国民国家と「世界秩序」論(2)		2014年10月	『立命館法学』、355号		324-373頁	
51	山下範久	「書評：下田淳『ヨーロッパ文明の正体』」		2014年10月	『比較文明』第30号		256-8頁	
52	西口清勝	TPPとRCEP:両者は補完関係にありFTAAPへと収斂していくというのは本当か？	単著	2014年6月	世界経済評論 IMPACT			無

53	西口清勝	FTAAP と AIIB-習近平の「アジア太平洋の夢」は叶うか？	単著	2014年12月	世界経済評論 IMPACT		無
----	------	----------------------------------	----	----------	---------------	--	---

3. 研究発表等							
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名		
1	小関素明	加藤周一研究序説―「歴史やいくさに押し流されない力の探求―	2014年8月4日	加藤周一研究会 京都市（立命館大学）			
2	中島茂樹	新自由主義大学構造改革と大学の自治―自立的・自治的な『知の集積体』から国策貢献大学または企業型マネジメント大学へ	2015年3月30日	民主主義科学者協会法律部会憲法分科会 夢海遊（洲本市）			
3	林尚之	世界大戦のなかの立憲主義と世界連邦的国連中心主義	2014年8月	シンポジウム「戦争と立憲主義」 史創研究会 奈良女子大学			
4	吉田武弘	「両院縦断」の系譜―もう一つの政党政治構想	2014年6月28日	日韓次世代学術フォーラム第11回国際大会、於立命館アジア太平洋大学			
5	吉田武弘	貴族院・非官僚派における「政党政治」構想とその展開	2014年10月31日	大阪歴史学会近代史部会、於大阪市福島区民会館			
6	吉田武弘	二院制の政治史	2015年1月24日	ソウル・京都・東アジア次世代国際学術大会、於立命館大学			
7	猪原透	近代日本の社会思想におけるエネルギー概念	2014年6月27日	日韓次世代学術フォーラム第11回国際学術大会、於大分県別府市（立命館アジア太平洋大学）			
8	真杉侑里	廃娼県群馬の売春動向―焦点の地理的移動と表面化の過程―	2014年12月5日	近代日本思想史研究会 京都（立命館大学）			
9	真杉侑里	廃娼県群馬における私的売春表面化の過程	2015年1月17日	近代女性史分科会、京都(ウィングス京都)			
10	山口一樹	戦前日本の「政党内閣」制における政軍関係の検討―1920年代を中心に―	2014年11月29日	大阪歴史科学協議会帝国主義研究会於・大阪市（大淀コミュニティセンター）			
11	山口一樹	陸軍と「政党内閣」制 ―1920年代前半における軍部大臣の輔弼権限の議論から―	2015年1月24日	2015 ソウル・京都東アジア次世代国際学術大会 於京都（立命館大学）			
12	寺澤ゆう	近代公娼制度下における私娼街の繁栄と黙認体制の形成	2014年6月27日	日韓次世代学術フォーラム 於大分県別府市（立命館アジア太平洋大学）			
13	寺澤ゆう	大正期の花街・遊廓の運営実態に関して	2014年8月	Ruhr 大学日本史ワークショップ ドイツ・Nordrhein-Westfalen州 Bochum 市（Ruhr 大学 Bochum 校）			
14	寺澤ゆう	大正・昭和期の東京における芸妓の位置づけと産業構造	2014年11月	近代女性史分科会 於京都市（ウィングス京都）			
15	赤澤史朗	靖国神社の戦没者の合祀基準―その変遷と問題点	2014年11月22日	日本現代思想史研究会例会 於東京（早稲田大学）			
16	梶居佳広	1960年代の憲法論議―憲法調査会と主要紙論説（1957～1964年）	2014年11月26日	同志社大学人文科学研究所 第6研究「戦後日本思想の諸相」 於京都市（同志社大学）			
17	梶居佳広	朝鮮戦争・日韓関係に関する日本の主要紙論説	2015年1月14日	立命館大学社会システム研究所・アジア社会研究会 研究報告 於滋賀県草津市（立命館大学 BKC）			
18	横田祐美子	「バタイユにおける非-知-逃走する極へ向かう思考―」	2014年5月24日	バタイユ・ブランショ研究会（日本フランス語フランス文学会） お茶の水女子大学			
19	横田祐美子	「唯物論としての「内的体験」―バタイユにおける「未知のもの」と質料としてのアルケー―」	2014年10月12日	立命館大学人文科学研究所「暴力から人間存在の回復」研究会、ワークショップ「現代思想と物質性」 立命館大学			
20	横田祐美子	「La vue dérobée:バタイユにおける視覚・思考・裸性」	2015年3月25日	立命館大学衣笠総合研究機構「間文化現象学研究センター」ワークショップ「視覚と間文化性」 立命館大学			
21	黒岡佳柁	「共に住む場所への問い―ハイデガーの根源的倫理学に寄せて―」	2014年7月20日	「2014年第4回レヴィナス研究会関西例会」レヴィナス研究会 同志社大学			



22	Yoshimasa Kurooka	“ The Question of a Place to Dwell in Together : Heidegger and “ Original Ethics”	2014年9月20日-21日	「第4回日中哲学フォーラム」 中国社会科学研究所、日本哲学会 北京大学	
23	黒岡佳柁	「身体、物体、死体—ハイデガーの身体問題から出発して—」	2014年10月12日	立命館大学人文科学研究所「暴力からの人間存在の回復」研究会、ワークショップ「現代思想と物質性」立命館大学	
24	黒岡佳柁	「眼と耳—解釈学的現象学と思索—」	2015年3月25日	立命館大学衣笠総合研究機構「間文化現象学研究センター」ワークショップ「視覚と間文化性」立命館大学	
25	鷹野克己	「笑いと彼岸—生きることはこんなにおかしい?」	2014年5月18日	日本笑い学会中部支部「日本笑い学会中部支部第144回笑例会」 椋山女学園大学	
26	鷹野克己	「言葉のいのち/いのちの言葉—言葉のちからと教育—」	2014年7月26日	木村素衛教育学研究会「第40回素心会」上田市かつら旅館	
27	鷹野克己	「文化の根底と意味に生きる人間 —あなたと一緒にケーキが食べたい—」	2014年8月2日	上小教育会「第56会菅平夏季大学」長野県上田市真田中央公民館	
28	鷹野克己	「何がそんなにおかしいの? —笑いの根源といのちの不思議—」	2014年11月9日	日本笑い学会「日本笑い学会第217回公開講座」 大阪市立弁天町市民学習センター	
29	ウェルズ恵子	Variations and Interpretations of Japanese Folk Religious Ballad, “ Princess Anjou and Prince Zushioh”	2014年6月	41th International Ballad Conference of the Kommission for Volksdichtung,	
30	Toru Tani	Roundtable: Future of Phenomenology in East Asia	2014年5月	Kairos and Topos: Phenomenology and the Celebration of Thinking, 6th international conference of P.E.A.C.E cum 8th Symposia Phaenomenologica Asiatica, 香港中文大学	Nam-In Lee, Kuan-Min Huang, Xianghong Fang (Moderator: Kwok-ying Lau)
31	Toru Tani	Leib als Medium	2014年9月	Leib und Leben, Chateau Liblice	
32	Toru Tani	Zwischen und Begegnung – im Zusammenhang mit Megumi SAKABEs Interpretation der Moderne	2014年10月	Diskurse der Moderne/n aus interkulturell-transkultureller Perspektive, XXIII. Kongress der deutschen Gesellschaft fuer Philosophie Westfaelische Wilhelms-Universitaet Muenster	Johann Schelkshorn, Lahkim Azelarabe Bennani (Moderator: Georg Stenger)
33	Toru Tani	Podium: Heidegger interkulturell?	2014年10月	Universitaet Wien	Georg Stenger, Helmut Vetter (Moderator: Martin Ross)
34	Toru Tani	Sein, Erscheinen, Kultur	2015年1月	Phaenomenologische Forschungen, Vortrag & Workshop Universitaet Wien	
35	Toru Tani	The <i>Kaizo</i> articles and the “translasion” of phenomenology	2015年2月	Humilitas & humanitas,, Lettura filosofiche in Ambrosiana, Attualita della crisi delle scienze europee, Ambrosiana	
36	伊勢俊彦	「持続可能性のための狩猟」は倫理的に健全でありうるか	2014年12月	京都現代哲学コロキウム第11回例会・ワークショップ「<動物の哲学>の挑戦」、キャンパスプラザ京都	呉羽真、吉沢文武
37	亀井大輔	自己触発と自己伝承—デリダの『ハイデガー』講義をめぐって	2014年10月	ワークショップ「デリダ×ハイデガー×レヴィナス」、早稲田大学・戸山キャンパス	川口茂雄、峰岸公也、馬場智一、小手川正二郎、渡名喜庸哲
38	亀井大輔	デリダの『存在と時間』読解と歴史の問題	2014年11月	日本現象学会第36回研究大会・ワークショップ1「初期デリダとハイデガー—デリダの『ハイデガー』講義(1964-65)をめぐって—」、東洋大学	加藤恵介、長坂真澄
39	亀井大輔	Workshop『獣と主権者I』を読む(第10回~第13回の解説)	2015年2月	Workshop『獣と主権者I』を読む、東京大学・駒場キャンパス	西山雄二、佐藤朋子、郷原佳以、守中高明、佐藤嘉幸、立花史、高桑和己
40	松田智裕	見えないものを反照する眼—デリダにおける視覚と直観をめぐって—	2015年3月	立命館大学間文化現象学センター・ワークショップ「視覚と間文化性」、立命館大学	和田渡、黒岡佳柁、佐藤勇一、田邊正俊、横田祐美子
41	松田智裕	デリダにおける出来事と事実性—出来事の不(可)視性と	2014年11月	ジャック・デリダ没後10年シンポジウム・プレセッション、早稲田大学	

		初期目的論批判をめぐる一			
42	横田祐美子	バタイユにおける非-知— 逃走する極へと向かう思考—	2014年5月	バタイユ・ブランショ研究会（日本フランス語フ ランス文学会）、お茶の水女子大学	
43	横田祐美子	唯物論としての「内的体験」— バタイユにおける「未知のもの」と質料としてのアルケー—	2014年10月	立命館大学「暴力からの人間存在の回復」研究会、 ワークショップ「現代思想と物質性」、立命館大学	
44	横田祐美子	La vue dérobée: バタイユに おける視覚・思考・裸性	2015年3月	立命館大学間文化現象学センター、ワークショッ プ「視覚と間文化性」、立命館大学	和田渡、黒岡佳祐、佐藤 勇一、田邊正俊、松田智 裕
45	Yuichi Sato	A Cursed Philosopher: Merleau-Ponty's consideration on Bergson and Christianity	2014年12月	OPO V Perth 2014, Phenomenology and the Problem of Meaning in Human Life and History, Murdoch University	
46	佐藤勇一	視覚の狂気と眼差しの帝国	2015年3月	立命館大学間文化現象学センター、ワークショッ プ「視覚と間文化性」、立命館大学	和田渡、黒岡佳祐、田邊 正俊、松田智裕、横田祐 美子
47	黒岡佳祐	共に住む場所への問い—ハイ デガーの根源的倫理学に寄せ て—	2014年7月	レヴィナス研究会第4回関西例会、同志社大学	
48	Yoshimasa Kurooka	The Question of a Place to Dwell in Together: Heidegger and “Original Ethics”	2014年9月	第4回日中哲学フォーラム、北京	
49	黒岡佳祐	眼と耳—解釈学的現象学と 思索—	2015年3月	立命館大学間文化現象学センター、ワークショッ プ「視覚と間文化性」、立命館大学	和田渡、佐藤勇一、田邊 正俊、松田智裕、横田祐 美子
50	林芳紀	医学研究者の追加的ケアの責 務:部分委託モデルの有効性と 妥当性の検証に向けて	2015年3月	京都生命倫理研究会、朱雀キャンパス	
51	Yusuke Ikeda	Sinnereignisse und Weltereignis – Das Diakritische der Experenzialien bei Laszlo Tengelyi –	2015年2月	Charles University in Prague, Czech Republic, Stage d'hiver 2015. Journees d'hommage a Laszlo Tengelyi	
52	遠藤 英樹	趣旨説明「ダークツーリズムと いう問い」	2014年11月	立命館大学人文科学研究所重点プロジェクト「グ ローバル化とアジアの観光」主催ワークショップ 「ダークツーリズムという問い」、立命館大学	
53	De Antoni Andrea	言説としてのダークネスダー クツーリズムをめぐる概念 化・権力・批判—	2014年11月	命館大学人文科学研究所重点プロジェクト「グ ローバル化とアジアの観光」主催ワークショップ 「ダークツーリズムという問い」、立命館大学	藤巻英樹、市野潤平、 山口誠、岡本亮輔
54	麻生 将	日常的な信仰実践による霊的 な空間の形成—函館大火慰霊 堂における心会和の活動を事 例に—	2014年6月	東アジア勉強会、京都大学	
55	麻生 将	「排除された」信仰と「取り戻 された」住民—奄美大島カトリ ック排撃事件と住民組織—	2014年11月	2014年人文地理学会大会、広島大学	
56	麻生 将	近現代の京都におけるキリス ト教会の誕生・移動・消滅	2015年3月	立命館京都学研究会、立命館大学衣笠キャンパ ス	
57	Kayoko Ishii	Session Introduction: Transnational Migration Networks among Ethnic Minorities in the Global Era”	2014年7月	The 18th World Congress of Sociology、横浜国際 会議場	
58	薬師寺浩之	海外孤児院ボランティアツアー —参加者の経験と開発途上国 に対する印象	2014年10月	グローバル化とアジアの観光研究会、立命館大学 衣笠キャンパス	
59	薬師寺浩之	マレーシアのツーリストエン クレーブで働く外国人労働者 が観光空間形成に果たす役割 —ジョージタウン・ペナンロー	2014年11月	2014年人文地理学会大会、広島大学東広島キャ ンパス、	

		ドの事例ー			
60	堀雅晴	マルクスとガバナンス論	2014年10月	日本政治学会 2014年度総会・研究会	
61	玉置えみ	The Gendered Effects of Marriage on Sobriety in Japan.	2014年5月	Population Association of America Annual Meeting	
62	玉置えみ	The Division of Household Labor, Gender Attitudes, and Marital Satisfaction: Evidence from Japan 1994-2009.	2014年5月	Population Association of America Annual Meeting	Ronald R. Rindfuss, Minja K. Choe, Noriko O. Tsuya, Larry L. Bumpass
63	松下 洸	「途上国における「暴力」を考える視点—『世界開発報告 2011』を中心に—」		途上国研究会(国際地域研究所プロジェクト)	
64	西口清勝	ASEAN 域内協力の新展開とメコン地域開発	2014年11月	アジア市場経済学会・日本貿易学会・合同研究会、専修大学神田学舎	
65	田中宏	EUのマクロリージョン	2015年3月	進化経済学会 2014年大会	
66	山下範久	国際関係論と領域主義: 圏域の思想の条件としてのウェストファリア史観		政治思想学会 2014年度大会シンポジウムⅡ「圏域の政治思想」、関西大学千里山キャンパス	
67	山下範久	The 'Long 20th Century' and Japan as a Non-Axial Civilization" (「長い、20世紀」と非軸文明としての日本)		(Keynote Speech of Section 7 (History)) The 14th International Conference of European Association for Japanese Studies at Ljubljana University	
68	山下範久	「ウェストファリア史観を脱構築する: 言説、理論、歴史」		国際政治学会 2014年度研究大会、福岡国際会議場	安高啓朗、芝崎厚士と共同発表
69	川村仁子	“Technology and Transnational Governance,”	2014年12月17日	Public Private Partnership (PPP) in Space, 衣笠キャンパス	
70	Kenki Adachi	“Resisting the Ban of Cluster Munitions: Tug-of-War between Norm Entrepreneurs and Norm Antipreneurs,”	February 18th, 2015	International Studies Association 56th Annual Conference, New Orleans	
71	足立研幾	「パワーシフトと軍縮・軍備管理レジーム」	2014年11月15日	日本国際政治学会、部会8「グローバル化時代における覇権理論の再検討、於福岡国際会議場	
72	Kenki Adachi	“Deter and Socialize: The Role of the United States in Asia-Pacific,”	October 20, 2014	United States Foreign Policy in International Perspective, The Oberoi New Delhi, New Delhi	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	映画『遺言—原発さえなければ』上映会 豊田直巳監督トーク	立命館大学以学館2号ホール	2014年10月8日	約120名	共催: 立命館大学国際平和ミュージアム
2	ワークショップ「現代思想と物質性」	立命館大学末川記念会館第3会議室	2014年10月12日	約30名	
3	「デリダにおける贈与と交換」	衣笠キャンパス	2014年12月	30名	首都大学東京傾斜的研究費「ジャック・デリダの脱構築思想の国際的共同研究」 科研費・基盤研究(C)「遺稿調査にもとづくジャック・デリダの脱構築思想の生成史の解明」
4	国際シンポジウム「西洋・東アジアと漢字文化の出会い」	衣笠キャンパス	2015年3月	50名	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所
5	ワークショップ「視覚と間文化性」	衣笠キャンパス	2015年3月	40名	
6	ダークツーリズムという問い	衣笠キャンパス	2014年11月	40名	観光学術学会
7	新自由主義的グローバル化と現代東アジアの社会経済構造の変容	創思館カンファレンスルーム	2015年 3月14日・15日	約80名	立命館大学産業社会学部

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	猪原透	猪原透・大門正克・長志珠絵・小野沢あかね・坂井博美・松原宏之 【座談会】 「慰安婦」問題が問いかけるもの	『「慰安婦」問題を／から考える』（岩波書店、2014年12月、pp.224～252）	
2	山口一樹	「政党内閣」制と軍隊—1920年代の政軍関係	立命館大学ライスボールセミナー	2014年12月16日
3	寺澤ゆう	中川小十郎の人生観	「中川小十郎と中川家文書」中川小十郎顕彰会 京都府亀岡市（ガレリア亀岡）	2014年6月
4	赤澤史朗	書評：河西秀哉編『戦後史のなかの象徴天皇制』	日本史研究 625、pp.45～51	2014年5月
5	亀井大輔	（共訳）ジャック・デリダ『獣と主権者 I』	白水社	2014年11月
6	佐藤勇一	（講演）『メルロ＝ポンティ・コレクション』を読む	公益社団法人京都勤労者学園公開講座	2014年6月～7月
7	佐藤勇一	（翻訳）マウロ・カルボーネ、「沈黙、さまざまな沈黙」	『間文化性の哲学』谷徹編、文理閣、PP.229～244	2014年8月
8	佐藤勇一	（講演）『フーコー・コレクション1 狂気・理性』を読む	公益社団法人京都勤労者学園公開講座	2015年1月～2月
9	青柳雅文	（翻訳）マックス・ホルクハイマー『初期哲学論集』	こぶし書房	2014年8月
10	青柳雅文	（翻訳）ベク・ジン「風土、持続可能性、空間の倫理 —和辻哲郎における文化的風土学と住宅建築—」	『間文化性の哲学』谷徹編、文理閣、PP.245～260	2014年8月
11	黒岡佳祐	（翻訳）クラウド・ヘルト「ヨーロッパの運命としての理念化」	『間文化性の哲学』谷徹編、文理閣、PP.78～96	2014年8月
12	黒岡佳祐	（翻訳）ミヒヤエル・シュタウディグル「ヨーロッパ、そして他者との関わり方への反省—レヴィナスとデリダの視座による間文化性への批判—」	『間文化性の哲学』谷徹編、文理閣、PP.120～139	2014年8月
13	藤巻正巳	招待講演 Opportunities Studying in Japan & Tourism: Issues & Challenges	Universiti Sultan Zainal Abidin, Kuala Terengganu, Malaysia	2014年8月27日
14	遠藤 英樹	新しい観光の形と観光統計データの活用	「ビッグデータ・オープンデータの活用による観光事業の活性化」（奈良県立大学）	2014年9月20日
15	川村仁子	コラム「神と動物」高橋良輔・大庭弘継編	『国際政治のモラル・アポリア 戦争／平和と揺らぐ倫理』pp.299-300（ナカニシヤ出版）	2014年

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1					

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	赤澤史朗	1960年代の憲法論議—地方紙を中心として	基盤研究（C）	2012年4月	2015年3月	代表者
2	加國尚志	間文化性の理論的実践的探求—間文化現象学の新展開	基盤研究（B）	2014年4月	2019年3月	代表者
3	ウェルズ恵子	アメリカにおける都市移民の口承文化：1880-1930年代の南欧東欧移民を中心に	基盤研究（C）	2014年4月	2018年3月	代表者
4	林芳紀	医学研究者の追加的ケアの責務—部分委託モデルの検証と国際正義論への接続	基盤研究（C）	2015年4月	2018年3月	代表者
5	伊勢俊彦	命を与える・命をもらう関係にかんするフェアネスと個性性の観点からの哲学的研究	基盤研究（C）	2013年4月	2016年3月	代表者

6	亀井大輔	遺稿調査にもとづくジャック・デリダの脱構築思想の生成史の解明	基盤研究 (C)	2014年4月	2017年3月	代表者
7	加藤政洋	戦後沖縄の都市形成期における離島出身者の就業構造	基盤研究 (C)	2014年4月	2017年3月	代表者
8	玉置えみ	家庭と仕事の両立と女性の健康:国際移住による社会環境の変化に注目して	若手研究 (B)	2015年4月	2018年3月	代表者
9	遠藤英樹	観光まちづくりと地域振興に寄与する人材育成のための観光学理論の構築	基盤研究 (C)	2012年4月	2016年3月	分担者
10	井澤友美	インドネシア・バリ州における民主化後のジレンマ:観光開発と文化保全	若手研究(B)	2015年4月	2019年3月	代表者
11	石井香世子	グローバル化の進展に伴うマイノリティの新たな生存戦略と越境移住ネットワーク	基盤研究 (C)	2012年4月	2015年3月	代表者
12	薬師寺浩之	日本人が参加する海外ボランティアツアーの文化に関する実証的研究	若手研究(B)	2014年4月	2017年3月	代表者
13	川村仁子	「非国家主体の自主規制による国際法規範の重層化に関する研究:科学・技術管理を事例に」	若手研究(B)	2013年4月	2017年3月	代表者
14	玉置えみ	家庭と仕事の両立と女性の健康:国際移住による社会環境の変化に注目して	若手研究(B)	2015年4月	2018年3月	代表者
15	足立研幾	グローバル規範の生成・変容・消滅メカニズムに関する研究	若手研究(B)	2013年4月	2017年3月	代表者

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	青柳雅文	アドルノの亡命期間における思想形成及び社会・文化との関係に関する研究	立命館大学 研究推進プログラム (科研費連動型)	2014年5月	2015年3月	代表者
2	Kayoko Ishii	“Toward Solutions Through Mutual Learning: Issues That Emerging Southeast Asia And Japan Share” (代表者:Kyoko Kusakabe, Asian Institute of Technology, Thailand)	The Toyota Foundation 2013 International Grant Program	2013年11月	2014年10月	分担者
3	石井香世子	弱者救済における地域観光の有効性に関する日タイ比較研究	京都大学東南アジア研究所 東南アジア研究の国際共同研究拠点 平成25年度共同研究	2013年4月	2015年3月	代表者
4	石井香世子	東南アジアにおける少数民族の出稼ぎ・ビジネス ネットワークに関する実証研究	アジア中島平和財団 アジア地域重点学術研究助成	2013年4月	2014年3月	代表者
5	川村仁子	「国家、国際機構、非国家主体による重層的なトランスナショナル・ガバナンスの研究:科学・技術管理を事例に」	立命館大学研究推進プログラム (若手研究)	2014年4月	2015年3月	代表者

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1								

以上